

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に 重大な影響を与える要因
		単位			
<凝固・凝固>					
活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) (新)	24.0 - 34.0	s	水色オーバーキャップ (3.2 %クエン酸ナトリウム), 1.8 mL 水色ゴムキャップ (3.2 %クエン酸ナトリウム), 0.9 mL	検体量過不足 検体凝固 ヘマトクリット55%以上の検体 (ただし、ヘマトクリットに応じ クエン酸ナトリウム量を調整した 採血管で採血した場合は 測定可能)	検体量の過不足や採血手技の不備によるヘパリン混入 溶血や乳びなど
プロトロンビン時間 (PT)	70 - 130	%			
PT-INR	1.0				
フィブリノゲン (Fib)	200 - 400	mg/dL			
アンチトロンビン活性 (AT)	75 - 125	%			
プロテインC 活性 (PC)	70 - 150	%			
フィブリン/フィブリノゲン分解産物 (FDP)	5 未満	µg/mL			
Dダイマー (DD)	1.0 未満	µg/mL			
可溶性フィブリンモノマー複合体 (SF)	7.0 未満	µg/mL			

<血算>					
・末梢血一般検査					
白血球 (WBC)	3300 - 8600	/µL	紫色オーバーキャップ (EDTA-2K), 2 mL	検体凝固、検体量不足	輸液混入、検体凝固 有核赤血球、赤血球溶血不良
赤血球 (RBC)	♂ 435 - 555 ♀ 386 - 492	10 ⁶ /µL			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
ヘモグロビン (Hb)	♂ 13.7 - 16.8 ♀ 11.6 - 14.8	g/dL			輸液混入、検体凝固、乳び
ヘマトクリット (Ht)	♂ 40.7 - 50.1 ♀ 35.1 - 44.4	%			輸液混入、検体凝固 赤血球凝集、高浸透圧検体
血小板 (PLT)	15.8 - 34.8	10 ³ /µL			輸液混入、検体凝固 血小板凝集、巨大血小板、破砕赤血球、小型赤血球
平均赤血球容積 (MCV)	83.6 - 98.2	fL			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
平均赤血球色素量 (MCH)	27.5 - 33.2	pg			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
平均赤血球色素濃度 (MCHC)	31.7 - 35.3	g/dL			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
赤血球分布幅 SD (RDW-SD)	♂ 37.3 - 47.0 ♀ 37.5 - 49.0	fL			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
赤血球分布幅 CV (RDW-CV)	♂ 11.6 - 13.9 ♀ 11.5 - 14.1	%			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集
血小板分布幅 (PDW)	♂ 9.2 - 16.6 ♀ 9.3 - 17.1	fL			輸液混入、検体凝固 血小板凝集、巨大血小板、破砕赤血球、小型赤血球
平均血小板容積 (MPV)	♂ 9.0 - 12.3 ♀ 9.2 - 12.5	fL			輸液混入、検体凝固 血小板凝集、巨大血小板、破砕赤血球、小型赤血球

・末梢血液像(自動機械法)					
好中球 (Neu)	♂ 38.4 - 73.7 ♀ 37.5 - 82.9	%	紫色オーバーキャップ (EDTA-2K), 2 mL	検体凝固、検体量不足	輸液混入、検体凝固、好酸球顆粒減少
好塩基球 (Bas)	0.2 - 1.4	%			輸液混入、検体凝固
好酸球 (Eos)	♂ 0.3 - 8.8 ♀ 0.2 - 6.4	%			輸液混入、検体凝固、好酸球顆粒減少
リンパ球 (Lym)	♂ 18.0 - 49.1 ♀ 14.0 - 52.6	%			輸液混入、検体凝固 有核赤血球、芽球・異常リンパ球増加
単球 (Mon)	♂ 4.9 - 11.0 ♀ 2.8 - 10.0	%			輸液混入、検体凝固、芽球・異常リンパ球増加
好中球数 (Neut)	♂ 1.70 - 6.37 ♀ 1.65 - 6.85	10 ³ /µL			輸液混入、検体凝固、好酸球顆粒減少
リンパ球数 (Lym)	♂ 0.99 - 3.16 ♀ 0.85 - 3.16	10 ³ /µL			輸液混入、検体凝固 有核赤血球、芽球・異常リンパ球増加
網赤血球数 (Reti)	♂ 10.7 - 23.4 ♀ 9.4 - 24.5	%			輸液混入、検体凝固、赤血球凝集、巨大血小板
幼若顆粒球 (IG)	無し	/100WBC			輸液混入、検体凝固
有核赤血球 (NRBC)	無し	/100WBC			輸液混入、検体凝固
異型リンパ球 (A-Lym)	無し				輸液混入、検体凝固、芽球・異常リンパ球増加
幼若血小板比率 (IPF)	♂ 0.7 - 6.3 ♀ 0.7 - 6.4	%			輸液混入、検体凝固、血小板凝集、巨大血小板

・末梢血液像(鏡検法)					
桿状核球 (Band)	0.5 - 6.5	%	紫色オーバーキャップ (EDTA-2K), 2 mL	検体凝固	輸液混入、検体凝固、細胞破壊
分葉核球 (Seg)	38.0 - 74.0	%			
好塩基球 (Bas)	0.0 - 2.5	%			
好酸球 (Eos)	0.0 - 8.5	%			
リンパ球 (Lym)	16.5 - 49.5	%			
単球 (Mon)	2.0 - 10.0	%			

<鼻汁好酸球>					
鼻汁好酸球検査	陰性		スライドガラスに鼻汁を塗布して提出	塗布不良	塗布不良

<血球>					
赤血球沈降速度 (ESR)	♂ 2 - 10 ♀ 3 - 15	mm	橙色キャップ血沈専用採血管 (3.2 %クエン酸ナトリウム), 1.28 mL	検体量過不足 検体凝固	検体凝固

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に 重大な影響を与える要因
		単位			
<臨床化学>					
・蛋白、含窒素化合物					
総蛋白 (TP)	6.6 - 8.1	g/dL			
アルブミン (ALB)	4.1 - 5.1	g/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
アルブミン、グロブリン比	1.32 - 2.23				
蛋白分画 (PF)					
Alb	57.4 - 69.5	%	薄茶色キャップ (分離ボリ), 5 mL	血漿検体	溶血
α1	1.9 - 3.0	%			
α2	6.3 - 10.2	%			
β	7.7 - 12.2	%			
γ	11.2 - 22.2	%			
尿素窒素 (UN)	8 - 20	mg/dL			
クレアチニン (CRE)	♂ 0.65 - 1.07 ♀ 0.46 - 0.79	mg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
推算糸球体濾過量 (eGFR)	90 以上	mL/min/1.73m			
尿酸 (UA)	♂ 3.7 - 7.8 ♀ 2.6 - 5.5	mg/dL			尿酸分解酵素製剤の投与
アンモニア (NH ₃)	12 - 66	μg/dL	紫色オーバークャップ (EDTA-2K), 2 mL	室温提出	採血後の時間経過
総ビリルビン (TB)	0.4 - 1.5	mg/dL			
直接ビリルビン (DB)	0.2 以下	mg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
間接ビリルビン (IB)	0.2 - 1.2	mg/dL			
・電解質関連					
ナトリウム (Na)	138 - 145	mmol/L			
カリウム (K)	3.6 - 4.8	mmol/L			溶血、クレンジング
クロール (Cl)	101 - 108	mmol/L	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		ハロゲン化物を含んだ薬剤の投与
マグネシウム (Mg)	1.7 - 2.6	mg/dL			
カルシウム (Ca)	8.8 - 10.1	mg/dL			
イオン化カルシウム (Ca ²⁺)	1.15 - 1.33	mmol/L	専用注射器 (Ca 調整済ヘパリンLi), 1 - 1.5 mL	検体凝固	採血後時間経過した検体(検体分離)
無機リン (IP)	2.7 - 4.6	mg/dL			
鉄 (Fe)	40 - 188	μg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		溶血
不飽和鉄結合能 (UIBC)	191 - 269	μg/dL			溶血
フェリチン (FER)	♂ 13 - 277 ♀ 5 - 152	ng/mL			溶血
・脂質					
総コレステロール (TC)	142 - 248	mg/dL			
HDLコレステロール (HDL-C)	♂ 38 - 90 ♀ 48 - 103	mg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
LDLコレステロール (LDL-C)	65 - 163	mg/dL			
中性脂肪 (TG)	♂ 40 - 234 ♀ 30 - 117	mg/dL			食事
・酵素					
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)	13 - 30	U/L			溶血、乳び
アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	♂ 10 - 42 ♀ 7 - 23	U/L			乳び
乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)	124 - 222	U/L			溶血
アルカリフォスファターゼ (ALP)	38 - 113	U/L			乳び
γ-グルタミルトランスフェラーゼ (γ-GT)	♂ 13 - 64 ♀ 9 - 32	U/L	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
コリンエステラーゼ (ChE)	♂ 240 - 486 ♀ 201 - 421	U/L			
アミラーゼ (AMY)	44 - 132	U/L			
唾液由来アミラーゼ (P-AMY)	血漿 16 - 52 尿 11 - 383	U/L	尿スピッツ, 10 mL		唾液混入
クレアチンキナーゼ (CK)	♂ 59 - 248 ♀ 41 - 153	U/L	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		乳び
CKMB	25 以下	U/L			乳び
・血糖関連					
グルコース (Glu) 空腹時	73 - 109	mg/dL			
グルコース (Glu) 75gOGTT 2h	140 以下	mg/dL	灰色キャップ (フッ化ナトリウム、ヘパリン), 2 mL	検体凝固	ヨウ素を含む外用薬を使用した部位からの採血 ACTH, GH, 甲状腺ホルモン, 副腎皮質ホルモン, アドレナリン, グルカゴン, サイアザイド系利尿薬, フロセミド, クロルブ ロマジン, ニコチン酸, インドメタシン, 経口糖尿病薬, インス リン, アルコール, レセルピン, サリチル酸, フィブラート系, モ ノアミンオキシダーゼ阻害薬など
グルコース (Glu) 随時	200 未満	mg/dL			
ヘモグロビンA1c (HbA1c)	4.9 - 6.0	%			
ヘモグロビンF (HbF)	0.3 - 1.3	%			
グリコアルブミン (GA)	11 - 16	%			
・その他 臨床化学項目					
KL-6	500 未満	U/mL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
心筋トロポニンI (TnI)	♂ 34.2 以下 ♀ 15.6 以下	pg/mL	薄茶色キャップ (分離ボリ), 5 mL		

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に重大な影響を与える要因
	値	単位			
<ホルモン>					
インスリン (IRI)	2.1 - 19.0	μU/mL	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL	ヘパリン血漿での測定	・低下 溶血
C-ペプチド (CPR)	0.78 - 5.19	ng/mL			プロインスリン、抗C-ペプチド抗体により偽高値
脳性Na利尿ペプチド (BNP)	18.4 以下	pg/mL	紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 3 mL		溶血、採取後室温放置
成長ホルモン (GH)	♂ 4.40 以下 ♀ 7.65 以下	ng/mL			・上昇 インスリン、セロトニン作動薬、エストロゲン、テストステロン ・低下 ブドウ糖、ソマトスタチン、セロトニン拮抗薬、グルココルチコイド、抗甲状腺薬
プロラクチン (PRL)	♂ 3.0 - 17.3 ♀ 1.6 - 21.9	ng/mL			・上昇 抗ドーパミン薬、マクロPRL、フェノチアジン ・低下 ドーパミン作動薬
異体形成ホルモン (LH)	成人男性 0.52 - 7.8 成人女性 卵前期 1.1 - 12.1 成人女性 排卵期 2.0 - 39.7 成人女性 黄体期 0.7 - 21.6 成人女性 閉経後 8.4 - 67.7	mIU/mL			アルコール、抗癌剤治療 スピロラクトン、性ホルモン剤
卵巣刺激ホルモン (FSH)	成人男性 1.3 - 17.0 成人女性 卵前期 2.6 - 11.9 成人女性 排卵期 2.8 - 15.6 成人女性 黄体期 1.4 - 9.6 成人女性 閉経後 13.3 - 157.1	mIU/mL			アルコール、抗癌剤治療 スピロラクトン、性ホルモン剤
甲状腺刺激ホルモン (TSH)	0.61 - 4.23	μIU/mL	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL		
遊離トリヨードサイロニン (FT3)	1.68 - 3.67	pg/mL			
遊離サイロキシン (FT4)	0.70 - 1.48	ng/dL			
TSHLセプター抗体 (TRAb)	3.10 未満	IU/L		ヘパリン血漿での測定	
サイログロブリン (Tg)	3.68 - 64.15	ng/mL			
テストステロン	男性 21 - 49歳 240.24 - 870.68 男性 50歳以上 220.91 - 715.81 女性 21 - 49歳 13.84 - 53.35 女性 50歳以上 12.40 - 35.76	ng/dL		ヘパリン血漿での測定	・上昇 テストステロン製剤、ゴナドトロピン製剤等
コルチゾール	4.4 - 21.1	μg/dL			・上昇 女性ホルモン剤、プレドニゾン、フロセミド、蛍光眼底造影剤 (フルオレセイン)、リウマトイド因子高値 ・低下 合成副腎皮質ステロイド剤
エストラジオール (E2)	成人男性 42.0 以下 成人女性 卵前期 < 20.0 - 121.6 成人女性 排卵期 < 20.0 - 231.8 成人女性 黄体期 < 20.0 - 463.4 成人女性 閉経後 53.3 以下 成人女性 妊娠前期 437 - 3888 成人女性 妊娠中期 867 - 35006 成人女性 妊娠後期 10317 - 43944	pg/mL			・上昇 甲状腺薬、グルココルチコイド、経口避妊薬、蛍光眼底造影剤 (フルオレセイン)、リウマトイド因子高値
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	8.7 - 61.5	pg/mL	紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 3 mL 紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 2 mL	検体量過不足 採血後水冷せず2時間以上経過した検体 検体凝固 採取容器間違い	・上昇 ストレス ・低下 溶血、検体量不足、室温放置 蛍光眼底造影剤 (フルオレセイン)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG)	5.00 未満	mIU/mL	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL		
<腫瘍マーカー>					
癌胎児性抗原 (CEA)	5.9 以下	ng/mL			・上昇 喫煙、高齢者
α-フェトプロテイン (AFP)	7.0 以下	ng/mL			・上昇 新生児
AFPレクチン分画 (AFP-L3 %)	10 未満	%			
CA125	35.0 以下	U/mL			エストロゲン
CA19-9	34.4 以下	U/mL			・低下 血液型 ルイスA陰性者
CA15-3	22.2 以下	U/mL			妊娠、授乳
扁平上皮癌関連抗原 (SCC)	1.5 以下	ng/mL	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL		唾液混入、皮膚片の混入
前立腺特異抗原 (PSA)	♂ 4.00 以下	ng/mL			・低下 前立腺肥大症の治療薬 男性型脱毛薬
PIVKA-II	33.3 以下	mAU/mL		ヘパリン血漿での測定	・上昇 ワルファリン、セフェム系抗菌薬 ・低下 ビタミンK 投与
ヒト精巢上体タンパク4 (HE4)	閉経前女性 70 以下 閉経後女性 140 以下	pmol/L		血漿検体	リウマトイド因子高値で上昇
可溶性インターロイキン2レセプター (sIL-2R)	204 - 587	U/mL			
<感染症>					
HBs 抗原 (HBsAg)	0.05 未満	IU/mL			輸液の混入
HBs 抗体 (HBsAb)	10.00 未満	mIU/mL	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL		輸液の混入
HBc 抗体 (HBcAb)	1.00 未満	S/CO			輸液の混入
HCV 抗体 (HCV)	1.00 未満	S/CO			輸液の混入
HBV 核酸定量	検出せず	LogU/mL	黄色オーバーキャップ (分離ポリ), 5 mL	検体量不足 ヘパリン混入検体 遺伝子検査専用検体のみ可 (検査併用不可)	ヘパリン血
HCV 核酸定量	検出せず	LogU/mL	黄色オーバーキャップ (分離ポリ), 5 mL	検体量不足 ヘパリン混入検体 遺伝子検査専用検体のみ可 (検査併用不可)	ヘパリン血
サイトメガロウイルス核酸定量	検出せず	IU/mL	紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 5 mL	検体量不足 ヘパリン混入検体 遺伝子検査専用検体のみ可 (検査併用不可)	ヘパリン血
HIV-1, 2 抗体 (HIV)	1.00 未満	S/CO			輸液の混入
HTLV-I 抗体 (HTLV)	1.00 未満	S/CO	薄茶色キャップ (分離ポリ), 5 mL		輸液の混入
梅毒血清反応 (STS)	陰性				生物学的偽陽性
梅毒検査TP抗体	1.00 未満	S/CO			輸液の混入
(1-3) β-Dグルカン	11.0 未満	pg/mL	β-Dグルカン専用容器 (Wako) (ヘパリンナトリウム), 3 mL	採取容器間違い	非特異的反応 術後、一過性に上昇する場合あり

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に 重大な影響を与える要因
		単位			
<免疫>					
IgG	861 - 1747	mg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
IgA	93 - 393	mg/dL			
IgM	♂ 33 - 183 ♀ 50 - 269	mg/dL			
血清補体価 (CH50)	30 - 46	CH ₅₀ /mL	薄茶色キャップ (分離ボリ), 5 mL		cold activation
C3	73 - 138	mg/dL	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		
C4	11 - 31	mg/dL			
β2-ミクログロブリン (β2m)	2.0 以下	mg/L			
C反応性蛋白 (CRP)	0.00 - 0.14	mg/dL			
プロカルシトニン (PCT)	0.50 以下	ng/mL			
リウマトイド因子 (RF)	15 以下	IU/mL			
マトリックスメタプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	♂ 35.2 - 123.8 ♀ 16.1 - 56.8	ng/mL			
オートタキシン (ATX)	♂ 0.490 - 0.817 ♀ 0.556 - 1.210	mg/L		薄茶色キャップ (分離ボリ), 5 mL	

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に重大な影響を与える要因
	数値	単位			
<尿検査>					
・尿定性					
比重	1.005 - 1.030		尿カップ, 50 mL	採取後室温で4時間以上経過した尿検体	着色尿および服用薬剤等により偽陽性、偽陰性となることがある
色調	淡黄色 - 黄褐色				
pH	4.5 - 7.5				
糖定性	2 - 20	mg/dL			
	定性値 (-)				
蛋白定性	30未満	mg/dL			
	定性値 (-)				
潜血反応	5個未満	/HPF			
	定性値 (-)				
ケトン体	2以下	mg/dL			
	定性値 (-)				
ビリルビン	0.05以下	mg/dL			
	定性値 (-)				
ウロビリノーゲン	0.03 - 0.97	mg/dL			
	定性値 normal				
亜硝酸塩					
	定性値 (-)				
白血球	12個未満	/uL			
	定性値 (-)				
濁度					
	定性値 (-)				

・尿沈渣					
赤血球	4以下	/HPF	尿カップ, 50 mL	採取後室温で4時間以上経過した尿検体 ・検体量が10 mLに満たない検体	尿定性検査が着色尿および服用薬剤等により偽陽性、偽陰性となることがある 結果が乖離することがある
白血球	4以下	/HPF			
硝子円柱	少数認める場合がある	/LPF			

・尿定量					
総蛋白 (U-TP)	0.5 - 13.1	mg/dL	尿カップ, 50 mL	採取後室温で4時間以上経過した尿検体	<ul style="list-style-type: none"> ・血尿で正誤差を与える ・過激な運動、精神的ストレス、多量の肉食、熱い湯に入浴後、月経前などで一過性に増加することがある ・過度の運動負荷状態や、体位などにより高値を示す場合がある ・pH が酸性での尿では低下する恐れがある ・24 時間蓄尿や起床時第1 尿の一部には変化がみられ測定結果の信頼性は不安である ・睡眠時に比べ日中活動時の排泄量は増加する ・加齢に伴って増加傾向がある ・運動負荷によって増加する ・細菌尿の場合低値となることがある ・妊娠、生後10 日 - 14 日以内は高値を示す場合がある ・ビリルビンが高濃度の場合は負の影響を与えることがある ・アマラーゼ活性は尿量に大きく左右される ・pH が8.0 以上または4.0 以下の場合失活する ・混濁尿や沈渣成分の多い尿では、白血球や上皮細胞由来のNAG のため正誤差となることがある ・排泄量は夜間に減少する ・アスコルビン酸、ビリルビン、セフェム系抗生薬が高濃度のとき、異常高値となることがある。 ・プリン体由来の核蛋白を多く含んだものを摂取すると高値の可能性あり ・動物性食品の多食により増加する ・サリチル酸剤、キニーネ、カフェインなどの薬剤服用で増加する ・異素イオン、ヨウ素イオンの存在で正誤差を生じる可能性あり ・溶血により正誤差を生じる ・睡眠時に低下し、起床直後に最高値を示す ・グルココルチコイド、ミネラルコルチコイドの慢性投与により増加する ・スピロノラクトンの投与で減少する ・抗てんかん剤、コルチコステロイド、利尿剤、インスリン、下剤、Mg塩、水銀剤等の薬剤で低下する ・蛋白同化ステロイド、エストロゲン、テストステロン、ビタミンD等の薬剤で上昇する。 ・午前より午後が高い ・アミノ酸、抗てんかん剤、エビネフリン、インスリン、フェニバルビタール、テトラサイクリン等の薬剤で低下する ・アラニン、蛋白同化ステロイド、アンドロゲン、成長ホルモモン、テトラサイクリン、ビタミンD等の薬剤で上昇する
	0.02 - 0.12	g/day	尿スビッツ, 10 mL		
アルブミン (U-ALB)	1.4 - 11.6	mg/L	尿カップ, 50 mL 尿スビッツ, 10 mL		
β2-マイクログロブリン (U-β2m)	30 - 340	μg/L			
グルコース (U-Glu)	2 - 20	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	40 - 85	mg/day	尿スビッツ, 10 mL		
アマラーゼ (U-AMY)	50 - 500	U/L	尿カップ, 50 mL 尿スビッツ, 10 mL		
NAG (N-acetyl-glucosaminidase)	♂ 0.9 - 6.2 ♀ 0.7 - 4.9	U/L	尿カップ, 50 mL		
	♂ 1.9 - 8.7 ♀ 1.3 - 4.5	U/day	尿スビッツ, 10 mL		
クレアチニン (U-CRE)	♂ 46 - 218 ♀ 33 - 193	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	0.5 - 1.5	g/day	尿スビッツ, 10 mL		
尿酸 (U-UA)	21 - 91	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	0.4 - 0.8	g/day	尿スビッツ, 10 mL		
尿素窒素 (U-UN)	310 - 1260	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	6.5 - 13.0	g/day	尿スビッツ, 10 mL		
ナトリウム (U-Na)	88 - 285	mEq/L	尿カップ, 50 mL		
	70 - 250	mEq/day	尿スビッツ, 10 mL		
カリウム (U-K)	17 - 75	mEq/L	尿カップ, 50 mL		
	25 - 100	mEq/day	尿スビッツ, 10 mL		
クロール (U-Cl)	89 - 298	mEq/L	尿カップ, 50 mL		
	70 - 250	mEq/day	尿スビッツ, 10 mL		
マグネシウム (U-Mg)	3.3 - 11.4	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	20.6 - 164.9	mg/day	尿スビッツ, 10 mL		
カルシウム (U-Ca)	3.6 - 31.2	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	100 - 200	mg/day	尿スビッツ, 10 mL		
無機リン (U-IP)	22 - 115	mg/dL	尿カップ, 50 mL		
	400 - 800	mg/day	尿スビッツ, 10 mL		
尿量	600 - 1600	mL/day	尿スビッツ, 10 mL		
24時間クレアチニンクリアランス (Ccr)	70 - 130	mL/min	尿スビッツ, 10 mL + 薄茶色キャップ (分糲ホリ) 5 mL		

<髄液検査>					
蛋白	15 - 45	mg/dL	滅菌スビッツ, 1 mL		
	10 - 15				
	15 - 25				
	20 - 45				
アルブミン	10 - 30	mg/dL			
IgG	1 - 3	mg/dL			
β2マイクログロブリン	0.44 - 1.24	mg/L			
糖	50 - 75	mg/dL			
LD	25以下	U/L			
クロール	120 - 125	mEq/L			
総細胞数	0 - 5	/uL			
					ヘパリン採取

<糞便検査>					
糞便中ヘモグロビン	100 以下	ng/mL	S採取容器, 10 mg		

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に重大な影響を与える要因
		単位			
<血中薬物>					
タクロリムス		ng/mL	紫色オーバーキャップ (EDTA-2K), 2 mL		採血手技の不備による薬剤の混入 採血手技の不備による薬剤の混入 溶血 採血手技の不備による薬剤の混入
シクロスポリン		ng/mL			
テオフィリン	5 - 20	μg/mL			
ジゴキシン	0.5 - 1.5	ng/mL			
バンコマイシン	トラフ値 10 - 20	μg/mL			
フェニトイン	7 - 20	μg/mL	赤色オーバーキャップ (フレーン), 5 mL	分離剤入り採血管による採血	
フェノバルビタール	15 - 40	μg/mL			
バルプロ酸ナトリウム	50.00 - 100.00	μg/mL			
カルバマゼピン	4.00 - 12.00	μg/mL			
メトトレキサート		nmol/mL			
<迅速検査(クイックラポ)>					
SARS コロナウイルス抗原 + インフルエンザウイルス抗原	陰性		スワブ(鼻咽頭拭い液)		大量血液の付着したスワブ
インフルエンザウイルス抗原	陰性		スワブ(鼻腔拭い液, 鼻腔吸引液, 咽頭拭い液, 鼻汁鼻かみ液)		
A群β溶血連鎖球菌抗原	陰性		スワブ(咽頭拭い液)		
RSウイルス抗原	陰性		スワブ(鼻腔拭い液, 鼻腔吸引液, 鼻腔洗浄液)		
アデノウイルス抗原	陰性		スワブ(鼻腔拭い液, 鼻腔吸引液, 咽頭拭い液, 角結膜拭い液)		
尿中レジオネラ抗原	陰性		尿カップ, 尿スピッツ, 1 mL		強混濁尿(膿尿, 血尿等)
尿中肺炎球菌抗原	陰性		滅菌スピッツ, 1 mL		
髄液肺炎球菌抗原	陰性		スワブ(咽頭拭い液)		
マイコプラズマ抗原	陰性		尿カップ, 尿スピッツ, 10 mL		強混濁尿(膿尿, 血尿等), 酸性尿
尿中hCG(妊娠反応)	陰性		尿カップ, 尿スピッツ, 10 mL		
心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	陰性		紫色オーバーキャップ (EDTA-2K), 2 mL	採取後24時間以上経過した全血 150 μL以下の全血	
ヒトメタニューモウイルス抗原	陰性		スワブ(鼻咽頭拭い液), 鼻腔吸引液		
ロタウイルス抗原	陰性		滅菌カップ, 糞便		血便
ノロウイルス抗原	陰性		滅菌カップ, 糞便		血便
<微生物迅速検査>					
クロストリジオイデス・デフィシル抗原定性	陰性		シードチューブ, 糞便(母指頭大)	・採取後72時間以上経過した検体 ・綿棒・おむつにしみ込んだ検体	検体量不足
<微生物核酸同定検査>					
結核菌群核酸検出	陰性				
マイコバクテリウム・アウウム及び イントラセラー (MAC) 核酸検出	陰性		採取検体により異なるため, 詳しくは「微生物シート」をご参照ください。	・期限切れ採取容器 ・採取容器不適 ・ヘパリン混入検体	・ヘパリンを含んだ検体 ・溶血操作が不十分な検体 ・唾液が多く唾液成分が少ない検体 ・塗抹陰性、もしくは菌量の少ない検体
<造血器腫瘍遺伝子検査>					
融合遺伝子の検出			末梢血: 紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 5 mL 骨髓血: 15 mL 遠沈管, 規定なし その他: 滅菌チューブ, 規定なし	・遺伝子検査専用検体のみ可 (検査併用不可) ・ヘパリン混入検体	ヘパリン血
キメリズム検査	STR		末梢血: 紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 3 mL 骨髓血: 15 mL 遠沈管, 規定なし その他: 滅菌チューブ, 規定なし	・遺伝子検査専用検体のみ可 (検査併用不可) ・ヘパリン混入検体	
<その他>					
・浸透圧					
血漿浸透圧	275 - 290	mOsm/kgH ₂ O	緑色キャップ (ヘパリンリチウム), 5 mL		外因性の浸透圧活性物質の存在 (アルコール, マンニトールなど)
尿浸透圧	50 - 1300	mOsm/kgH ₂ O	尿スピッツ, 10 mL		
・血液ガス(動脈血)					
pH	7.35 - 7.45				採血後時間経過した検体(検体分離)
二酸化炭素分圧 (PCO ₂)	♂ 35 - 48 ♀ 32 - 45	mmHg			
酸素分圧 (PO ₂)	83 - 108	mmHg			
酸素飽和度 (SO ₂)	94 - 98	%			
ナトリウム (Na)	136 - 145	mmol/L			
カリウム (K)	3.5 - 5.1	mmol/L			
クロール (Cl)	98 - 107	mmol/L	専用注射器 (Ca 調整済ヘパリンLi), 1 - 1.5 mL	検体凝固	
イオン化カルシウム (Ca ²⁺)	1.15 - 1.33	mmol/L			
COヘモグロビン (COHb)	3以下	%			
メトヘモグロビン (MetHb)	0.0 - 1.5	%			
O ₂ ヘモグロビン (O ₂ Hb)	94.0 - 98.0	%			
Hヘモグロビン (HHb)	3未満	%			
グルコース (Glu)	65 - 95	mg/dL			
乳酸 (LAC)	1.8 - 1.9	mmol/L			
・ICG					
ICG停滞率	10 以下	%	薄茶色キャップ (分離ボリ), 5 mL		溶血
・SARS-CoV-2検査					
RT-PCR	陰性		FLOQスワブ(鼻咽頭ぬぐい液) 検体輸送用培地	スワブが乾燥する状態や、 多量の血液が付着した スワブでは検査不可	大量血液の付着したスワブ

項目	基準範囲		採取容器(添加物), 採取量	検査(受入)不可基準	検査の性能仕様や結果の解釈に 重大な影響を与える要因
		単位			
<血液型>					
ABO			紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 3 mL	検体量不足 検体凝固	採血手技の不備による輸液混入 異型輸血後 歪型、キメラ・モザイク 年齢、疾患、投薬、造血幹細胞移植
RhD					
<不規則抗体>					
不規則抗体検査	陰性		紫色ゴムキャップ (EDTA-2K), 5 mL	検体量不足 検体凝固	採血手技の不備による輸液混入 輸血 投薬(薬剤の種類による)

項目	基準範囲		検査(受入)不可基準 (検査できない患者)	検査の性能仕様や結果の解釈に 重大な影響を与える要因
	基準範囲	単位		
<心電図 (ECG)>				
P波	0.1 - 0.2	mV	<ul style="list-style-type: none"> 検査に対して、同意が得られない患者 安静維持が困難な患者 重度の胸部熱傷等で電極装置が困難な患者 	電極装着位置に処置や傷がある場合、電極の位置をずらして装着する。 理由とコメント入力に対応する
	0.07 - 0.10	s		
PQ 間隔	0.12 - 0.20	s		
QRS 時間	0.08 - 0.10	s		
R波	0.6 - 1.6	mV		
Q波	≦R波高の1/4	mV		
	≦0.04	s		
S波	≦0.06	s		
ST	(上昇) ≦0.1	mV		
	(下降) ≦0.05	mV		
T波	0.2 - 0.5	mV		
	0.10 - 0.25	s		
QT 間隔 (QTc)	0.35 - 0.44	s		
心電図 R-R 間隔変動	健康成人 3 - 6 高齢者 2 - 4	%	<ul style="list-style-type: none"> RR間隔不整(正常洞調律以外。心房細動、ペースメーカー調律、頻発する期外収縮など) 	
ブルガダ症候群判別用心電図	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> 検査に対して、同意が得られない患者 安静維持が困難な患者 重度の胸部熱傷等で電極装置が困難な患者 	

<ホルター心電図>				
2誘導ホルター (NASA, CM5)	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> 検査協力を得られない患者 着用型自動除細動器を装着している患者 	電極装着位置に処置や傷がある場合、電極の位置をずらして装着する。 理由とコメント入力に対応する
LPホルター	該当なし	該当なし		
12誘導ホルター	該当なし	該当なし		
ABPM	該当なし	該当なし		
長時間ホルター	該当なし	該当なし		
1誘導ホルター	該当なし	該当なし	ペースメーカー装着患者	

<運動負荷試験>				
トレッドミル運動負荷試験	該当なし	該当なし	【絶対的禁忌】 <ul style="list-style-type: none"> 2日以内の急性心筋梗塞 内科治療により安定していない不安定狭心症 自覚症状または血行動態異常の原因となるコントロール不良の不整脈 症候性高度大動脈弁狭窄 コントロール不良の症候性心不全 急性の肺塞栓または肺梗塞 急性の心筋炎または心膜炎 急性大動脈解離 意思疎通の行えない精神疾患 	該当なし
心肺運動負荷試験	該当なし	該当なし	【相対的禁忌】 <ul style="list-style-type: none"> 左冠動脈主幹部の狭窄 中等度の狭窄性弁膜症 電解質異常 重症高血圧 頻脈性不整脈または徐脈性不整脈 肥大型心筋症またはその他の流出路狭窄 試験が十分に行えないような精神的または身体的障害 高度房室ブロック 	

<超音波検査>						
・心エコー						
【左室】						
左室内径	LVDd 男性 42-58 女性 38-52	mm	<ul style="list-style-type: none"> 体動が激しく安静を保つことが出来ない患者。 処置等によりアプローチ部位に検査用ゼリーおよびプローブを当てられない患者。 	該当なし		
	LVDs 男性 25-40 女性 22-35	mm				
左室容積 (biplane)	LV EDV 男性 62-150 女性 46-106	mL				
	LV ESV 男性 21-61 女性 14-42	mL				
左室容積/BSA	LV EDV 男性 34-74 女性 29-61	mL/m ²				
	LV ESV 男性 11-31 女性 8-24	mL/m ²				
	LV EF (biplane) 男性 52-72 女性 54-74	%				
	GLS 20以上	%				
【左室心筋】						
1次元計測法	左室心筋重量 男性 88-224 女性 67-162	g				
	左室心筋重量係数 男性 49-115 女性 43-95	g/m ²				
	相対的壁厚 男性 0.24-0.42 女性 0.22-0.42	g/m ²				
	中隔壁厚 男性 6-10 女性 6-9	mm				
	後壁壁厚 男性 6-10 女性 6-9	mm				
断層心エコー法	左室心筋重量 男性 96-200 女性 66-150	g				
	左室心筋重量係数 男性 50-102 女性 44-88	g/m ²				
【左房】						
	左房容積係数 16-34	mL/m ²				
【右室】						
	右室基部径 25-41	mm				
	右室中部径 19-35	mm				
	右室長軸径 59-83	mm				
	傍胸骨長軸像右室流出路径 20-30	mm				
	右室流出路近位部径 21-35	mm				
	右室流出路遠位部径 17-27	mm				
	右室壁厚 1-5	mm				
	TAPSE 17-31	mm				
	Pulsed Doppler S wave 9.5-18.7	cm/s				
	Color Doppler S wave 6.0-13.4	cm/s				
	RV fractional area change 35-63	%				

【右房】	右房短径	男性 1.3-2.5	cm/m ²		
		女性 1.3-2.5	cm/m ²		
	右房長径	男性 1.8-3.0	cm/m ²		
		女性 1.9-3.1	cm/m ²		
	右房容積	男性 11-39	mL/m ²		
		女性 9-33	mL/m ²		

・頭動脈エコー							
収縮期最高血流速度 (PSV)							
	総頸動脈	40 - 100	cm/sec	・原則、検査不能の患者はいないが、 激しい体動や検査に協力が得られない 場合は検査できない場合がある。	該当なし		
	内頸動脈	40 - 80	cm/sec				
	椎骨動脈	40 - 70	cm/sec				
拡張末期血流速度 (EDV)							
	総頸動脈	5 - 30	cm/sec				
	内頸動脈	20 - 40	cm/sec				
	椎骨動脈	6 - 40	cm/sec				
内臓中膜複合体厚 (IMT)							
	20歳 - 29歳	0.7以下	mm				
	30歳 - 39歳	0.8以下	mm				
	40歳 - 49歳	0.9以下	mm				
	50歳 - 59歳	1.0以下	mm				
	60歳 - 69歳	1.1以下	mm				
	70歳以上	1.2以下	mm				

・下肢動脈エコー					
収縮期最高血流速度 (PSV)					
	150以下		cm/sec	・原則、検査不能の患者はいないが、 激しい体動や検査に協力が得られない 場合は検査できない場合がある。 ・創部の検査は出来ない場合がある。	該当なし

・腎動脈エコー					
収縮期最高血流速度 (PSV)					
	180以下		cm/sec	・原則、検査不能の患者はいないが、 激しい体動や検査に協力が得られない 場合は検査できない場合がある。	食事直後は腸管ガスの影響で、 描出困難な場合が多い。検査は 不可能ではないが、食事直後は 避ける。
腎動脈PSV/腹部大動脈PSV比 (RAR)					
	3.5以下				

・下肢静脈エコー					
	血栓なし		該当なし	・原則、検査不能の患者はいないが、 激しい体動や検査に協力が得られない場 合は検査できない場合がある。 ・創部の検査は出来ない場合がある。	該当なし

<呼吸機能検査>							
%VC (%肺活量)							
	80以上		%	検査協力が得られない患者 ・技師の指示通りに呼吸できない患者 ・ENBD チューブ等の経鼻的チューブが 留置されている患者 ・気管切開している患者 ・以下に示す患者の測定には十分考慮し、 医師の判断のもとに実施する。 急性疾患、高血圧症、心臓疾患、 高熱疾患、法定伝染病患者、 呼吸困難を来す可能性がある疾患、 胸痛を呈することのある患者	該当なし		
FEV1 1.0%(1秒率)							
	70以上		%				
Gaensler1秒率: FEV1 / FVC							
	改善率200以上	かつ	mL				
Tiffenau1秒率: FEV1 / VC							
	改善率12以上		%				
*気管支拡張薬反応性ありの基準							
	V50	3.0以上	L/sec				
	V25	1.0以上	L/sec				
	V50/25	3.0以下					
%MMF(%最大中間呼気流量)							
	80以上		%				
%MVV(%最大換気量)							
	80以上		%				
酸素消費量							
	200 - 500		mL/min				

<精密肺機能検査>							
%DLCO(肺拡散能)							
	80以上		%	検査協力が得られない患者 ・技師の指示通りに呼吸できない患者 ・ENBD チューブ等の経鼻的チューブが 留置されている患者 ・気管切開している患者 ・以下に示す患者の測定には十分考慮し、 医師の判断のもとに実施する。 急性疾患、高血圧症、心臓疾患、 高熱疾患、法定伝染病患者、 呼吸困難を来す可能性がある疾患、 胸痛を呈することのある患者	該当なし		
DLco/VA							
	5.0 - 6.0		mL/min/mmHgL				
RV/TLC							
	25 - 30 (高齢者:40%程度)		%				
%RV							
	80 - 120		%				
%FRC							
	80 - 120		%				
%TLC							
	80 - 120		%				
CV/VC							
	(男性)予測値 [*] ± 4.15		%				
	(女性)予測値 [*] ± 4.90		%				
CC/TLC							
	(男性)予測値 [*] ± 4.09		%				
	(女性)予測値 [*] ± 4.43		%				
ΔN2							
	1.00 ± 0.14		%L				

<呼気ガス分析>					
呼気ガス分析					
	37以下		ppb	・気管切開している患者	該当なし

<脳波検査>					
脳波検査					
	該当なし		該当なし	・体動が激しく安静を保つことが 出来ない患者 ・脳波電極装着部位の付け髪が 外せない患者 ・循環状態が不安定な場合や 低体温療法中の場合などに伴い 電極装着が不可能な患者 ・飛沫感染を起こす病原体を 保有している患者	電極装着位置に処置や傷がある 場合、電極の位置をずらして 装着する。 理由とコメント入力で対応する

<終夜睡眠ポリグラム>					
PSG					
	該当なし		該当なし	・検査中に睡眠に至らない患者	該当なし
簡易PSG					
	該当なし		該当なし	・検査中に睡眠に至らない患者	該当なし

<足関節上腕血圧比>					
ABI					
	正常	1.00 - 1.40		・上肢または下肢の静脈血栓がある四肢 ・人工透析シャントがある四肢 ・カテーテル等を装着している四肢 ・乳房を切除した側の腕 ・持続血糖測定器(リブレ)を装着している 場合、カフを巻く位置にセンサーがなけれ ば、検査可能	・R-R間隔不整の場合は 参考値とする
	ボーダーライン	0.91 - 0.99			

<心臓足首血管指数>					
CAVI					
	9.0未満			・上肢または下肢の静脈血栓がある四肢 ・人工透析シャントがある四肢 ・カテーテル等を装着している四肢 ・乳房を切除した側の腕 ・持続血糖測定器(リブレ)を装着している 場合、カフを巻く位置にセンサーがなけれ ば、検査可能	・R-R間隔不整の場合は参考値 ・ABI低値の場合はCAVI値も 低下するため参考値

<神経伝導検査>						
・神経伝導速度						
正中神経 MCV(手関節-手関節)	43.6 - 54.0	m/sec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚温上昇で神経伝導速度は上昇 ・皮膚温低下で神経伝導速度は低下、CMAP持続時間延長、SNAP振幅増大 		
正中神経 MCV(手関節-肘関節)	52.9 - 62.5	m/sec				
正中神経SCV	50.4 - 62.0	m/sec				
尺骨神経 MCV(肘関節-肘関節下)	53.7 - 63.7	m/sec				
尺骨神経 MCV(肘関節下-肘関節上)	55.5 - 66.4	m/sec				
尺骨神経SCV	49.6 - 60.0	m/sec				
脛骨神経 MCV(足関節-膝関節)	44.9 - 52.1	m/sec				
腓骨神経 MCV(10-40歳)	46.9 - 58.1	m/sec				
腓骨神経 MCV(41-64歳)	45.3 - 56.9	m/sec				
腓骨神経 MCV(足関節-膝関節下)	44.5 - 52.1	m/sec				
腓骨神経 MCV(膝関節下-膝関節上)	45.8 - 58.2	m/sec				
・F波最短潜時						
正中神経(手関節)	24.4 - 28.8	msec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚温上昇で神経伝導速度は上昇 ・皮膚温低下で神経伝導速度は低下、CMAP持続時間延長、SNAP振幅増大 		
尺骨神経(手関節)	25.4 - 29.8	msec				
脛骨神経(足関節)	42.7 - 52.7	msec				
腓骨神経(足関節)	44.4 - 52.4	msec				
・手根管症候群検査 潜時差						
2L-INT法	0.5 未満	msec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚温上昇で神経伝導速度は上昇 ・皮膚温低下で神経伝導速度は低下、CMAP持続時間延長、SNAP振幅増大 		
環指比較法	0.5 未満	msec				
母指比較法	0.5 未満	msec				
・瞬目反射(BR)						
第1応答(R1)						
	30歳 - 39歳	9.42 - 11.78	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし		
	40歳 - 49歳	10.31 - 11.89				
	50歳 - 59歳	10.88 - 12.92				
	60歳 - 69歳	10.64 - 14.76				
第2応答(刺激側)(R2)						
	30歳 - 39歳	28.34 - 33.66				
	40歳 - 49歳	29.29 - 39.11				
	50歳 - 59歳	31.56 - 40.44				
	60歳 - 69歳	32.20 - 46.20				
第2応答(反対側)(R2)						
	30歳 - 39歳	28.45 - 34.55				
	40歳 - 49歳	28.98 - 39.42				
	50歳 - 59歳	31.94 - 39.86				
	60歳 - 69歳	32.66 - 46.54				
・表面筋電図						
	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし		
異常筋反応(AMR)						
	出現せず	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし		
<誘発電位検査>						
・短潜時体性感覚誘発電位検査(SSEP)						
上肢(正中神経) elbow	2.96 - 4.30	msec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚温の低下により潜時延長 		
上肢(正中神経) Erb	8.26 - 11.24	msec				
上肢(正中神経) N13	11.29 - 14.91	msec				
上肢(正中神経) N20	16.92 - 20.88	msec				
上肢(正中神経) CCT	5.12 - 6.54	msec				
下肢(後脛骨神経) POP	5.27 - 7.81	msec				
下肢(後脛骨神経) N20	18.09 - 23.71	msec				
下肢(後脛骨神経) P39	32.59 - 42.21	msec				
下肢(後脛骨神経) CCT	13.61 - 19.59	msec				
・聴性脳幹反応(ABR)						
I	1.24 - 1.54	msec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし		
II	2.24 - 2.90	msec				
III	3.43 - 3.97	msec				
IV	4.55 - 5.37	msec				
V	5.28 - 5.96	msec				
I - III	2.09 - 2.55	msec				
III - V	0.92 - 3.16	msec				
I - V	3.06 - 5.16	msec				
・ABR閾値検査(他覚的聴力検査)						
	該当なし	該当なし			<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし
・視覚誘発電位(VEP)						
P100	94.86 - 119.14	msec	<ul style="list-style-type: none"> ・体動が激しく安静を保つことが出来ない患者 ・検査の協力を得られない患者 ・心臓ペースメーカー、ICDの埋め込みのある患者 ・測定する腕にシャントや持続自己血糖測定器(リブレ)のある患者 	該当なし		

<微生物検査>

入院患者の場合

検体種	採取容器	採取量	検体搬送条件	注意点	検査の性能仕様や結果の解釈に影響を与える可能性のある要因
喀出痰・気管吸引痰	採取容器	2 mL - 5 mL	当日中に速やかに提出 (提出までは冷蔵保存)	抗酸菌検査の場合は、できるだけ多く検体採取	
気管支鏡下採取	採取容器	2 mL - 5 mL			
肺洗浄液	滅菌スピッツ	1 mL - 7 mL			
胃液	滅菌スピッツ	1 mL - 7 mL			
咽頭粘液・扁桃粘液・鼻腔内粘液	スワブ(綿棒)		当日中に速やかに提出 (提出までは冷蔵保存)	扁桃周囲腫瘍が疑われる場合は、シードチューブで採取 淋菌が疑われる場合は、冷蔵せず、連絡後直ちに提出 デフィシル菌毒素は綿棒採取では検査不可 赤痢アメーバを疑う場合は、連絡後直ちに提出	
尿	滅菌スピッツ	3 mL - 7 mL			
便	シードチューブ	母指頭大	採取後速やかに提出 (提出までは室温保存)	2セット採取が原則 それぞれにオーダーが必要 1本で検査可能 抗酸菌専用ボトルの払い出しは、冷蔵せず、連絡後直ちに提出	
血液・骨髓液	芽気ボトル	8 mL - 10 mL			
	嫌気ボトル	8 mL - 10 mL			
	小尿ボトル	1 mL - 3 mL	当日中に速やかに提出 (提出までは冷蔵保存)	淋菌が疑われる場合は、冷蔵せず、連絡後直ちに提出	
	抗酸菌専用ボトル	1 mL - 5 mL			
髄液	スワブ(綿棒)				
カテーテル先端	シードチューブ				
髄液	滅菌スピッツ	1 mL - 3 mL			
胸水・腹水・胆汁・関節液	シードチューブ・滅菌スピッツ	3 mL - 7 mL			
膿・ドレーン	シードチューブ・スワブ(綿棒)	1 mL - 5 mL			
組織	シードチューブ	1 g			
耳漏・眼の分泌物	スワブ(綿棒)			抗酸菌検査の場合は、シードチューブで採取 オーダー時、採取部位をコメント入力	

外来患者の場合

検体種	採取についての注意事項
喀出痰・便	病院内で採取する場合 ・採取後、速やかに採血室受付に提出する 自宅で採取する場合 ・来院する日に採取し、採血室受付に提出する ・採取日を記載する ・提出するまでは、冷蔵保存する
尿	採取後、速やかに採尿室の尿カップ置き場に提出する